

第1章 名古屋市の予算と市税収入

令和6年度予算の主な取組み

1 若い世代が将来に明るい展望を持ち、結婚・子育ての希望をかなえられるよう、社会全体で応援します

出会いや結婚の希望をかなえる支援 6,200万円

結婚、妊娠・出産、子育てに温かい社会づくりの機運醸成を図るために、婚活イベントやライフデザインセミナーを開催します。

なごや子ども住まいプロジェクトの推進 3,919万円

官民の多様な住宅ストックを活用し、子育て世帯のライフステージに応じた切れ目のない住まい支援策をパッケージ展開します。

2 誰一人取り残すことなく、子ども・若者の希望や夢を社会全体で応援します

キャリアタイムの実施 2億4,725万円

子どもが自分らしさや自分の生き方を探究する授業を「キャリアタイム」として実施します。

就学援助所得基準額の変更 4億1,729万円

保護者負担の軽減のため、就学援助の所得基準額を当面の間引き上げます。

3 一人ひとりに応じたやさしい福祉を実現し、ともに支え合い活躍できるまちづくりを進めます

腹部超音波スクリーニング検査 1億8,350万円

50歳以上の市民を対象に、自己負担500円で腹部の各種疾患の発見を目的とした腹部超音波スクリーニング検査を実施します。

バリアフリー整備相談支援事業の検討調査 500万円

施設整備にあたり、障害者や高齢者など配慮を必要とする当事者から意見聴取を行う当事者参画のあり方や仕組みの構築に向けた検討を行います。

4 災害や感染症から市民の命と産業を守り、安心・安全な暮らしを確保します

能登半島地震を踏まえた地震対策に関する検証 500万円

避難所における生活環境・要配慮者の避難対策など、被災地応援の活動で見えてきた課題を整理し、大規模地震に向けた備えを改めて検証するとともに、災害応援による他都市の初動体制などについて調査を行います。

感震ブレーカーの設置促進 1億4,293万円

感震ブレーカー（分電盤タイプ）の設置費用の一部を助成するとともに、主な木造住宅密集地域については、感震ブレーカー（簡易タイプ）の助成件数の拡充などを実施することで、設置促進を図ります。

5 独自の魅力で世界から多様な人が集い交流する、環境と経済の好循環で成長する都市をつくります

リニア中央新幹線開業に向けたまちづくりの推進 21億5,732万円

名古屋駅ターミナル機能の強化 21億3,432万円

名古屋駅周辺まちづくりの推進 2,300万円

アジア・アジアパラ競技大会会場施設の整備 137億8,747万円

【対象施設】

総合体育館レインボープール
総合体育館レインボーホール

瑞穂公園ラグビー場
稲永スポーツセンター

金城ふ頭アリーナ
港サッカー場

東山公園テニスセンター

本市の主な取組みの詳細やその他の施策を市ウェブサイト(ページID:172059)で紹介しています



市ウェブサイトでのID検索方法は2ページ参照

一般会計予算と市税収入

《予算》

予算は、**一般会計、特別会計、公営企業会計**の3つに分けられます。

特別会計は、特定の収入によって特定の事業を行う場合など一般会計の歳入歳出予算と区別して経理する必要がある会計です。

また、公営企業会計は、企業的色彩の強い事業で、サービスを受ける方からいただいた料金で運営することを原則とした会計です。

〈特別会計の例〉

- 国民健康保険会計
- 後期高齢者医療会計
- 介護保険会計 など

〈公営企業会計の例〉

- 水道事業会計
- 自動車運送事業会計
- 高速度鉄道事業会計 など

令和6年度の当初予算総額(一般会計、特別会計、公営企業会計を合わせたもの)は、2兆9,937億円となっています。このうち、市税を主な財源とし、福祉・教育など市政の基本的な施策にかかる経費の会計である一般会計は1兆4,853億円となっています。

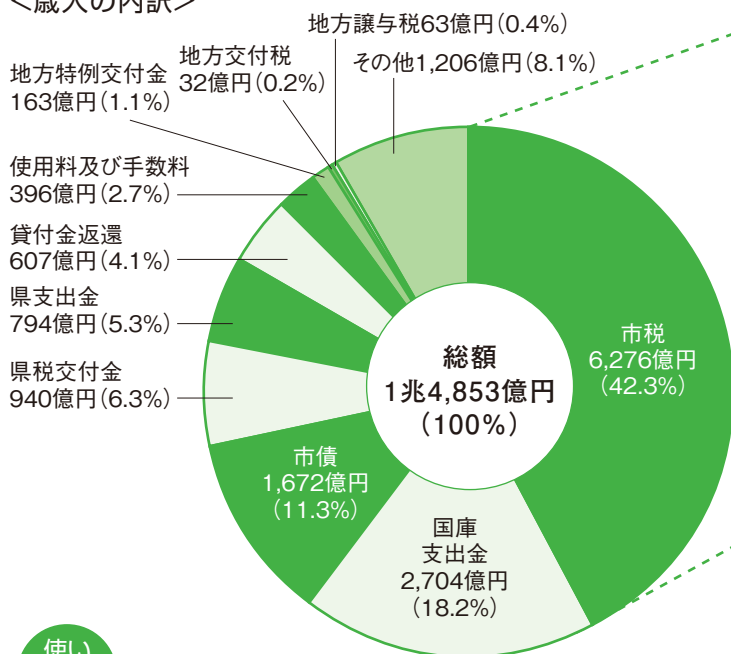
《歳入予算》

名古屋市の令和6年度当初予算における市税は6,276億円で一般会計歳入予算の42.3%を占めています。ついで、国庫支出金、市債、県税交付金等となっています。

これらの収入の中には、その使いみちが特定されているものもあります。また、市債は将来において元利償還をしなければなりません。

一方、市税は市民のために自由に使うことができる財源ですから、市民のみなさんの声を反映させながら名古屋市が行政を運営していくうえで、もっとも重要な役割をになっているといえます。

〈歳入の内訳〉



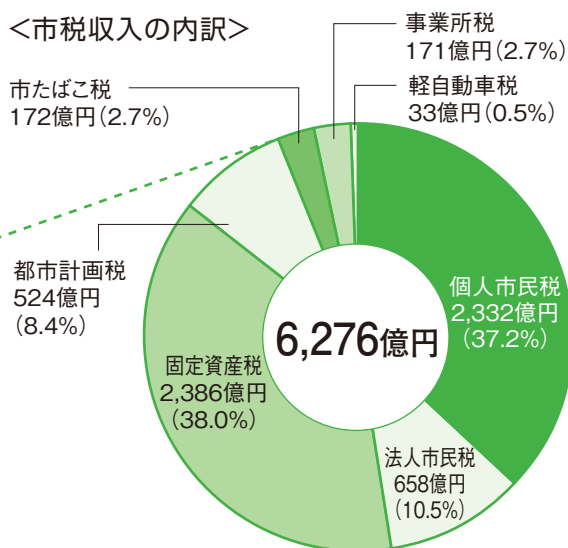
使いみちは...?

県税交付金のうち地方消費税交付金について
地方消費税率の引上げ分の地方消費税交付金(令和6年度予算306億円)は、年金、医療及び介護の社会保障給付、少子化対策やその他社会保障施策に要する経費(令和6年度予算社会保障施策充当一般財源3,377億円)に充てています。

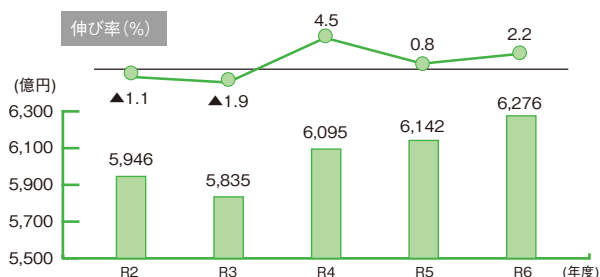
《市税収入の内訳》

令和6年度当初予算の市税収入額は6,276億円です。その内訳をみると市民税と固定資産税が全体の85.7%を占めており、市税収入の中心になっています。

〈市税収入の内訳〉



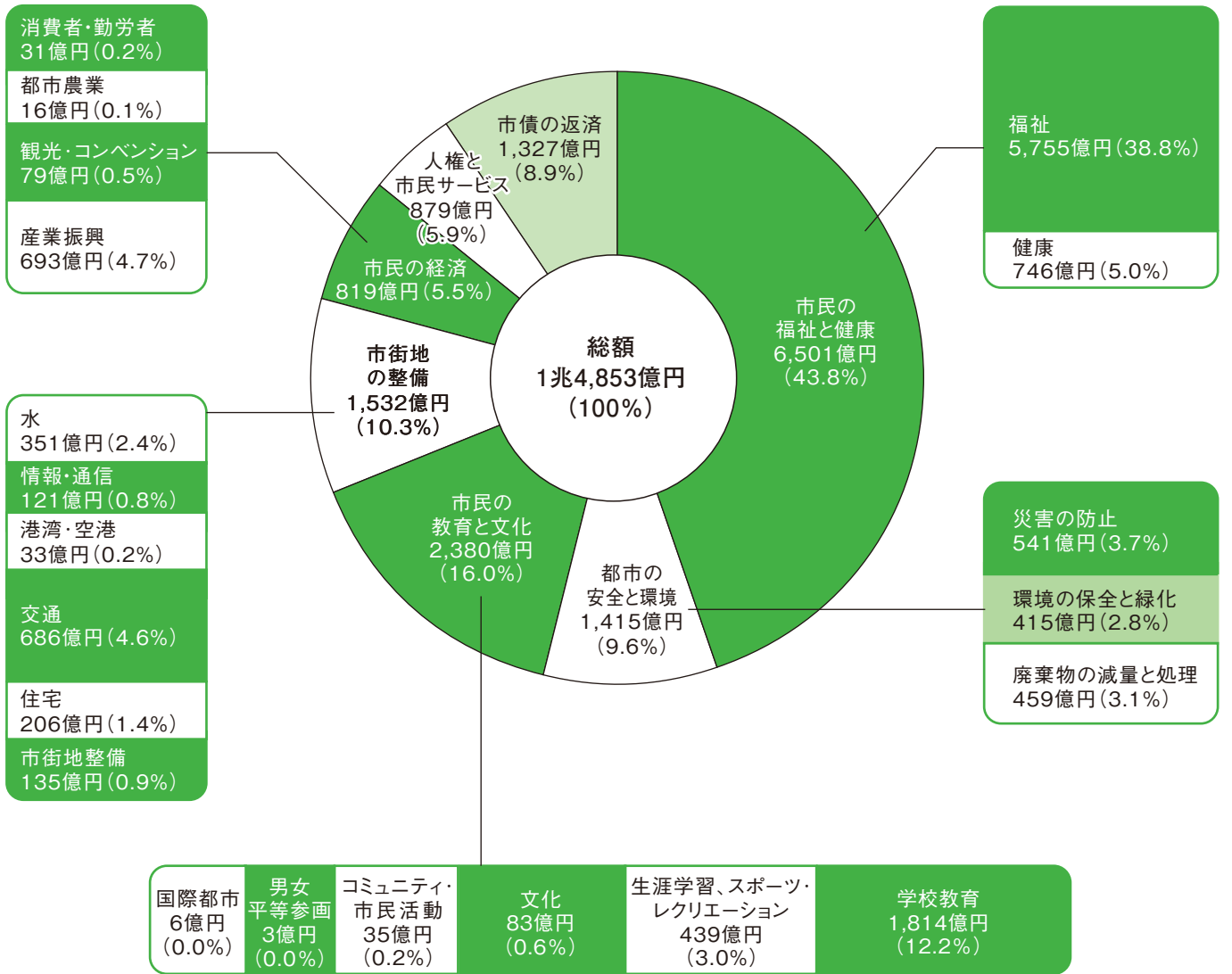
市税収入の過去5年の推移



(注1)各年度の収入額は、令和4年度までは決算額、5年度及び6年度は当初予算額です。
(注2)市税収入は、令和2年度及び3年度は法人市民税法人税割の一部国税化の拡大等で減収となったものの、4年度以降は企業業績の改善等により、増収となっています。

《歳出予算》

<歳出の内訳>

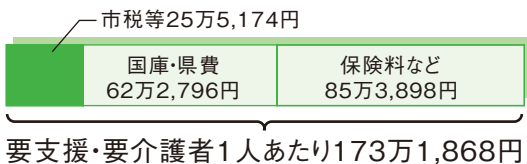


名古屋市の予算と
市税収入

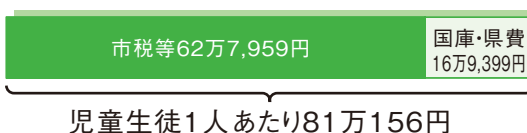
市税の使いみち

実際の暮らしの中ではこんなふうに市税が使われています。

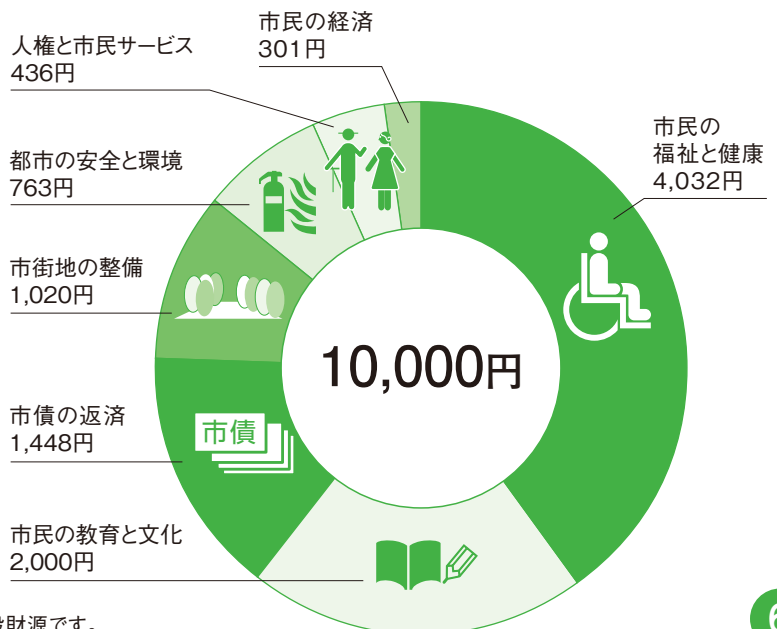
- 介護保険のための経費2,184億円を要支援・要介護者1人あたりに換算すると…



- 市立小・中学校の運営費1,282億円を児童生徒1人あたりに換算すると…



<市税収入10,000円あたりの使いみちをしてみると…>



※市税等とは、市税、県税交付金、臨時財政対策債などの一般財源です。